

# 保健体育科学習指導案

日時・場所： 平成21年7月8日（水）第5校時・体育館  
生徒： 2年 B組 女子 16名  
指導者： 佐々木 富貴子

1 単元名 球技 「バスケットボール」

2 単元について

(1) 生徒について（生徒観）

進級して2ヶ月、新体力テストと陸上競技を中心に体づくり運動を取り入れながら進めてきた。どの種目に対しても、課題解決に向けて黙々と努力しながら前向きに取り組むことができる生徒が多い。挨拶や行動の素早さなど、学習規律も定着している。特に、リーダーがしっかりしており、声かけも的確で全体の動きにもメリハリがある。

クラス替えをしてから集団的な運動は初めてであり、お互いの運動に対する意識の共通理解が、まだ充分とはいえない状態であり、自分の力を出し切れていない生徒も中にはいるようである。コミュニケーションを積極的にとらせ、開放的な雰囲気の中で失敗を恐れずにプレーできるような環境作りが大切であると感じている。バスケットボール部員や小学校での経験者を軸にチーム編成をし、練習やゲームにおいて、技能の個人差を理解させながら、励ましあったりカバーしあいながら、チームワークを高めあっていくことの重要性も指導していきたい。

(2) 教材について（教材観）

バスケットボールは、2つのチームがコート内で攻撃と防御に分かれ、パス・ドリブル・シュートなどの個人的技能をいかしながら集団的技能を発揮し、一定時間内で得点を競い合う競技である。チーム内での攻防の作戦を立てたりするおもしろさや、その作戦をもとに練習したことがゲームで成功したときに大きな喜びを味わうことができる。また、一人一人が役割を果たしみんなの力が結集され、勝利を手にすることができたときの喜びが魅力でもある。筋力・持久力・調整力をはじめ、多くの運動要素を含んでおり、体力を向上させる競技である。また、ルールやマナーを守る姿勢や、勝敗に対する公正な態度などは、社会生活における望ましい態度や行動にもつながり、人間形成に役立つ教材にもなると考えられる。

(3) 指導にあたって（指導観）

バスケットボールに限らず球技では、ボールを捕ったり、投げたり、弾ませたりという感覚が技能の向上に欠かせない。しかし、これらの感覚は皮膚の感覚だけで磨かれるものではなく、実際にボールに触れ、体の使い方や視野の置き方、ボールの弾み方を考えたり意識しながら経験することにより身につけていくものと考えられる。

そこで、各授業の始めに、様々な身のこなしの中で、体のあらゆる部位でボールに触れることを通して、ボールを手や指先でコントロールしたり、キャッチしたり、ボールの行方を予測して触ったりする感覚を身につけさせたいと考えている。また、ゲームではパスを有効に活用した集団的技能を重視し、そのために必要な「パスをもらう人の空間への走り込み」や「パスを出す人の状況判断」などを感覚的に理解させるドリルを仕組んでいきたい。さらに、仲間とのコミュニケーションの場を積極的に設け、技能の共有化を図るとともに、技能の習得・向上を図っていきたい。技能や態度において優れたものに対しては、全体の前で評価し、意欲的に取り組む姿勢を育てたい。

### 3 単元の目標

- (1) バasketボールの特性に関心を持ち、自己やチームの課題解決に向けて、仲間と協力して積極的に取り組んでいる。 **【関心・意欲・態度】**
- (2) 自己やチームの課題を明らかにし、能力に応じた計画を立て、課題解決に向けて練習を工夫することができる。 **【思考・判断】**
- (3) 自己やチームの能力に応じた課題の練習やゲームを通して、集団的技能や個人的技能を高めることができる。 **【技能】**
- (4) ゲームの運営に必要な集団的・個人的な技能の基礎的知識を学び、理解する。 **【知識・理解】**

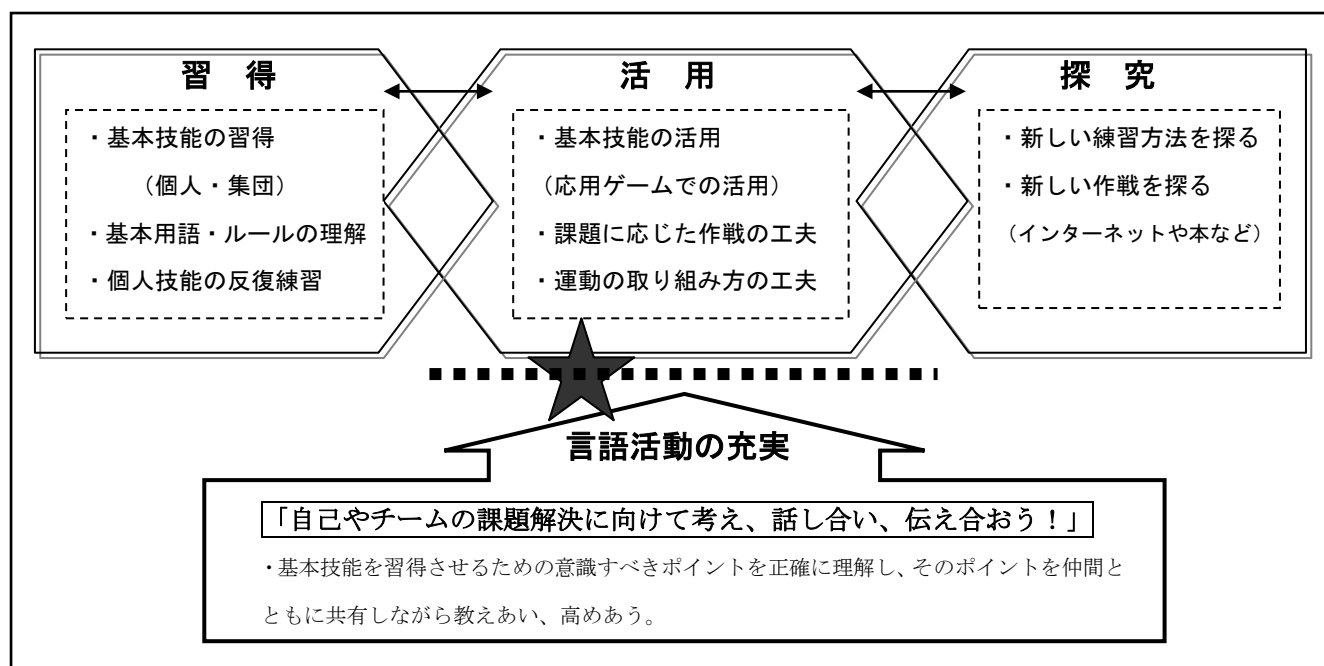
### 4 単元の指導計画と評価規準

#### (1) 単元全体の評価規準

「Basketボール」(本時 6 / 12時間)

学 習 内 容	時 間	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
[オリエンテーション] ・学習のねらいと目標確認 ・学習の進め方と安全について理解する [グループ編成] ・目標設定・役割分担 [試しのゲーム]	1	Basketボールの特性に関心をもち、話をよく聞いて意欲的に学習に取り組もうとしている。			Basketボールの特性や学習のねらい・安全について理解している。
[基本技能の練習] ・シュート ・ドリブル ・パス ・ピボットターン	3	自己の課題解決に向けて、仲間と協力し、積極的に取り組もうとしている。	自己の課題に気づき、そのための手段や練習方法などを見つけることができる。	シュート、パス、ドリブル技能を正確にできる。	基本技能の高め方を理解している。基本用語やルールを知っている。
[課題練習] ・アウトナンバー (2 : 1、3 : 2) ・ドリブルなしゲーム (4 : 4)  [集団技能の理解] ・パス&ラン ・カットインプレー ・スクリーンプレー	2 / 6 (本時)	自分の役割を果たし、練習やゲームをする楽しさや喜びを味わおうとしている。	自己や相手の技能に応じた攻撃と防御の作戦をたてることができる。  課題に気づき、解決のための手段・練習方法などを見つけることができる。	チームや自己の能力に応じた課題の練習やゲームを通して、集団的技能や個人的技能を高めることができる。	集団的技能の高め方や合理的な練習のしかた・安全に留意した運動のしかたを理解している。
[まとめのゲーム] ・学習や練習したことをいかしてゲームを行う ・練習成果の評価とまとめ	2	ゲームに対して、仲間と励ましあい、楽しく意欲的に取り組んでいる。	チームの課題を個人技能と集団技能のそれぞれの面で分析し次のゲームに向けて戦術を立てることができる。	練習で習得した個人的・集団的技能をゲームの中で活用することができる。	チームにおけるゲームのねらいを理解し、取り組んでいる。  基本的なルールや審判のしかたを理解している。

(2) 単元における「習得」「活用」「探究」の学びの流れと、言語活動の充実をはかる手立て



## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ① 課題に応じた攻撃のしかたを考え、動きを工夫している **【思考・判断】**
- ② 空いているスペースを見つけて走りこみ、スムーズなパスをつなぐことができる。 **【技能】**

### (2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	Bに至らない生徒への手立て
運動についての思考・判断	課題に応じた攻撃のしかたについて、自分やチームに足りないところを考え、解決のための動きを工夫し、全員で取り組もうとしている。	課題に応じた攻撃のしかたについて、自分やチームに足りないところを考え、解決のための動きを工夫している。	失敗やつまずきの原因を振り返らせるとともに、他の人やチームのいいところを参考にするように助言する。
運動の技能	仲間到的確な指示を出しながら、パスコースをつくりだし、効果的なパスを出したり、もらったりすることができる。	空いているスペースを使い、パスを出したり、もらったりすることができる。	空いているスペースを一緒に見つけ、声かけをする。また、チームリーダーに的確な指示を出せるよう助言する。

### (3) 指導の構想

- ① アップにボールを使ったドリルを入れ、体力向上と共に本単元に必要な基本技能の定着をはかる。パス・ピボットターンなど、既習内容を繰り返し練習し、本時の課題に迫る手だてとする。
- ② 2対1, 3対2のアウトナンバーの練習から、パスを出す人の的確な状況判断や、正確なパスの技能を身につけさせる。
- ④ 「ノードリゲームⅠ」では、課題解決に向け、うまくいかないところを話し合わせる。  
(言語活動)
- ⑤ 話し合いの成果をいかして、「ノードリゲームⅡ」を行い、さらに高める。
- ⑥ 他チームのチーム分析を行わせ、次時の課題や目標の参考にさせる。

(4) 展開

	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆ 評価の工夫 ◎
導 入 15 分	1、整列・挨拶・出欠等の確認 2、準備運動・アップドリル 3、2対1, 3対2 (復習) 4、本時の目標・内容説明	1 全体で整列・挨拶後、正座し大きな声で返事をする。 2 グループごとにランニング・体操・ストレッチ・アップドリルを行う。 ※4つのドリルをローテーションで行う。 [ ①ドリブルシュート ②セットシュート ③ボールハンドリング ④パス ] 3 アウトナンバー (2対1, 3対2) での、パスゲームを行う。(復習) ※ピボットターンでボールをキープしながら、よくみて (状況判断)、安全にパスを出す。 4 腰をおろした状態で、本時の内容・課題等を聞き、確認する。	☆挨拶の際、黙想をさせ気持ちを落ち着かせる。 ☆毎時間、繰り返して行い、ボール感覚を身につけさせる。 ☆前時の内容を振り返らせる。 ☆次の課題解決につながる動きであることをつかませる。
<b>空間に走りこみ、ボールをつなごう！</b>			
展 開 30 分	5、ノードリゲーム I (課題追求) 6、チームミーティング・発表 7、ノードリゲーム II (確かめ・まとめ)	5 ハーフコートの4対4で、ドリブルなしの簡易ゲームを行う。2分で何本のシュートが入るかを競う。 ※シュートの本数をプリントに記入する。 ※特別ルールで行う。(ゴールの工夫・ボールの数) 6 <b>ドリブルなしゲームの課題克服のための話し合いを行い、交流する。(言語活動)</b> ※空いているスペースを有効につかうためには、どうしたらいいか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>視点</b> パッサーのボールキープ、レシーバーの状況判断や動く方向、パスの距離、声など         </div> 7 確かめのゲームを行う。 ※「ノードリゲーム I」と同様のルールで、ゴールは通常のゴールで行う。 ※チームミーティングでの課題を意識して行う。 ※役割分担を決め、他チームのゲーム分析を行い、分析表に記入する。 (パス・シュート・カット)	☆自分のチームの課題を見つけさせ、共有化させる。 ◎自分たちの課題をつかみ、解決に向け、話し合いをしようとしている。(思考・判断) ☆課題解決の視点を与える。 ◎空いているスペースを使い、スムーズなパスができている。(技能) ☆空いているスペースを声がけする。 ☆他のチームのいいところも参考にさせる。
終 末 5 分	8、振り返り 9、挨拶・片付け	8 本時を振り返り、グループごとに反省を話し合い、学習プリントへ記入する。 ※分析表を渡し、次時の課題や目標の参考にする。 9 整列・挨拶後、リーダー中心に片付けを行う。	☆今日の反省を次の時間の課題にもいかすように助言する。

## 訂正

☆アップドリルを一部 変更

☆チーム分析 「ドリブル」 なし

## 当日までの流れ

7月6日（月） 「ボールをしっかりキープしよう」

★アップメニューを実際にやる。(サークル鬼ごっこ・パス&キャッチ)

★ピボット→ 軸足の親指の付け根

★1：1 キープさせる

★2：1 20秒

★3：2 (1班と2班 3班と4班) 20秒

7月7日（火） 「空いている味方に正確なパスを出そう」

★2：1

★3：2 (1班と2班 3班と4班)

★ノードリゲーム(かご) 4：4 分析表の書き方